

【記念式典】

司会 これより日本女子大学理学部創設10周年記念式典を行ないます。

開会の辞、日本女子大学大隅正子理学部長。

大隅 昨日からお天気を心配しておりましたが、梅雨の



晴れ間と申しますか、なんとか雨が降らずに本日を迎えることができました。今日は遠路はるばる京都大学名誉教授・岡田節人先生、内閣府男女共同参画局長・坂東眞理子先生、そして岡崎国立研究機構長の毛利秀雄先生のご臨席を頂きました。そして、私たちが愛する日本女子大学

の多くの関係の方々にお集まり頂きまして、この由緒ある成瀬記念講堂で、理学部創設10周年の記念式典を挙行することができますことを、大変うれしく、有難く、また光栄に存じております。

理学部を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。

本学の理学部は、その設立の構想が浮かび上がりましてから34年間にわたる宿願がようやく実を結び、1992年4月に開設され、今年丁度10年を迎えました。その間の経緯の概略につきまして、私から以下にご挨拶に代えて説明させていただきます。

皆さまご存知のように、創立者成瀬仁蔵先生は、今から101年前の1901年に、日本女子大学校を設立されました。先生は開学の時にすでに女子の総合大学を目指しておられました。したがって理学部の建設は本学の創立の時から、創立者の構想の中に含まれていたと言えます。去る6月21日に成瀬先生の145回目の生誕の会を開催いたしました。その時に私もお話をさせていただいたのですが、成瀬先生は家政学の基礎は理学にあるとして理学に寄せる期待は大きく、開学時に優れた理学者を教授として迎え入れられ、また当時としては最高の理科教育の設備を設けられました。例えば、ドイツからライツの光学顕微鏡を購入されたり、ウィーンから動物の掛図など最高の教材を取り入れたりして、当時としては大変アカデミックな雰囲気のある教室で動物学の実験をされていたことが記録に残っております。

それらの資料は、昨年12月の本学創立100周年記念事業の一環として「未来を夢見てここに集う」と題して展示をさせていただきました。本日も成瀬記念館におきまして、理学部創立10周年記念事業の一部として「自然科学教育の100年」と題して展示をいたしておりますので、ご

覧いただければ幸いに存じます。

さて、本学創立者の理学重視のお考えは、歴代の学長に受け継がれておりました。例えば1948年に学制改革により新制大学に昇格した時、大橋廣・第五代学長は、家政学部の中に家政理学科を設立されました。そして1958年、上代タノ・第六代学長は理科の拡充を提言されました。丁度その当時、私は助手をいたしておりましたので、そのお話を洩れ承って、近い将来理学部が創設されるのだという夢を抱きました。ところがそれは1967年にと延ばされ、次に70周年記念事業の一環になり、次は80周年の記念事業に、という具合に設立の年がどんどんと延びていきました。私どもは希望と絶望と忍耐の気持ちを、長い間繰り返してまいりました。

しかしついに、青木生子・第九代学長は1986年9月、臨時全学教授会におきまして、「学園の将来構想について」という訓辞をされました。その中で理学部設立の強い決意をうかがい知ることができ、私はやっと安心いたしました。

民主化が進んでいた本学におきましては、学内のコンセンサスを得るために、何回も教授会を開いて、皆さまと討議をいたしました。そしてやっと1992年にわが国の私立女子大学として初の理学部が本学に誕生しました。その後、1996年には大学院研究科修士課程が、そして1998年には博士課程後期が設立され、教育と研究機関として確立することができました。

これまでに1,215名の学部卒業生と、82名の修士、5名の課程博士、1名の論文博士を世に送り出して、私たちは創設10周年を迎えることができました。

理学部の教育は通常のカリキュラムの他に、理学部セミナー、数物セミナー、物性コロキウム、理学部シンポジウムを開いたり、公開講演会や韓国の梨花女子大学とお茶の水女子大学との合同フォーラムを開催したりするなど、国内外の学術交流にも努めております。また昨年度からは、情報教育の開発を進めるマルチメディア・モデル・キャンパスとしての機能を整え、加えてオープン・リサーチ・センターとして国内外の人材を育成することにも努めております。そして本年度からは、中国からの留学生を受け入れるなど、先輩の他学部とやっと肩を並べて教育と研究をすることができるようになって参りましたことを御報告申し上げます。

以上、本学の理学部について、皆さまのご理解を頂きたく、学部創設までの経緯とその後の発展について簡単に申しまして、挨拶とさせていただきます。本学におきまして最も新しい理学部の更なる発展と飛躍のために、皆さまの一層のご支援を頂きたくお願い申し上げます。本日は御来校を頂きまして有難うございました。[拍手]

司会 「式辞」, 日本女子大学, 後藤祥子学長・理事長。

後藤 本日は, 本学理学部創設10周年に, かくもお歴々の皆さまにお集まり頂きまして, 本当に有難うございます。そしてこれからご祝辞を頂戴いたします毛利先生, それからまた特別なご講演をお願いすることになっております岡田先生, 坂東局長, その後のパネル・ディスカッションに参加していただけた大変華やかな, しかも重厚なお顔ぶれの皆さま, この10周年の記念行事を飾るべく, いやが上にも盛り上げていただけますことを, 本当に厚く御礼申し上げます。

ここにご参集の皆さまの中には, この時, というよりは, 10年前の本学理学部創設を待ちかねていらした方が多くおいでだと存じます。特に今日お集まりの名誉教授の方々, あるいは旧教職員の方々, ご卒業の方々など, 実に様々な形でこの理学部を支え, これまでに育ててくださった方々にお集まり頂いていることと存じます。この日を期しまして, 私どもの新たに力となりました, この本学理学部の確立に, 改めて祝意を捧げたいと思います。

今, 大隅学部長の話にもありましたように, 本学の創立者成瀬仁蔵先生は, 早くから「科学する女性」ということに大変強い関心を持たれていました。歴史を振り返りますと, 明治30年代というのは, 日本全国にそういう空気が溢れていたことを私どもは窺い知ることができるのですが, どうも成瀬校長の目指したところは, 単に世の風潮に従うだけではなく, 極めて実質的な足掛かりを持ったものであるということ, 私どもは昨年100周年を祝うにつけて改めて実感したのでございます。

今残されております数々の記念品, 大隅学部長からご紹介がありましたような顕微鏡にしても, 残されております写真などにいたしましても, 実に専門的に優れた仕事が幾つも発見されるのでございます。これは理学に限ったことではないのかもしれませんが, 本学の創立に与った数多くの方々の熱い志を, 私どもは今改めて実感いたします。その成果として, 先程出て参りました大橋廣先生もそうですし, 歴史的にも名が残る女性博士の丹下うめ博士もそうですが, そうした数々の卒業生を生み出しながら, 長らく理学ということを旗印に掲げることが封じられて参りました。これは卒業生の教職に関しましてもかなりハンディを負ったもののようにございまして, 近時その有難味をつくづく実感するのですが, その理学部創設の産みの苦しみは, 先程も学部長が触れ

た通りでございます。

そうやって新たに生まれ変わりました理学部の中から博士が輩出し, そして世の理学の女性教員として, 実に多くの人々がこの中から巣立って参りました。丁度今年の春の叙勲でたまたま大隅学部長が紫綬褒章を得られたということも, 私共にとりましては, 誠に慶賀に耐えない次第でございます。そういった一つの現れを見ておりましたが, 本学の果たして参りましたこの国における理科教育あるいは科学の発達に与っております女性の役割を, 改めて重く実感いたします。

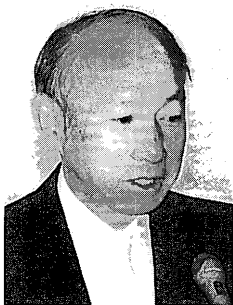
近時, ますますそうした科学に求められるものは, 単に突出した特別な人にとっての科学ということではなしに, 生きとし生けるものすべてが恩恵に与ることのできる, 暖かみのある人間味のあるものであり, それこそが私は日本女子大学のヒューマニティを貫くものだと思っております。まさしく日本女子大独自の理学, 理学部というものがこれからますます育っていくのだと存じます。

今日, ここまでにお育てくださいました方々, お力添えをくださいました外部の先生方, 今後とも日本女子大学のこの理学部の行く末を暖かくお見守りくださいますようお願い申し上げます。拙い簡単な言葉でございますけれども, 本日の式辞とさせて頂きたいと存じます。本日は誠に有難うございました。[拍手]

司会 続きましてご来賓よりお祝辞をちょうだいいたします。ご来賓を代表して, 岡崎国立共同研究機構長でいらっしゃる毛利秀雄先生をお願いいたします。毛利先生, 宜しくお願いいたします。

毛利氏 諸先輩もご列席のところ, 来賓を代表して祝辞を述べさせていただく失礼をお許しください。まず最初に, 日本女子大学が理学部創設の10周年をお祝いになることになったことに対して, 心からお慶び申し上げます。また, 先程大隅理学学部長からのお話もありましたけれども, この理学部の創設に当たりましていろいろと努力をされてこられた歴代の学長先生をはじめ理学関係のOBの先生方, あるいは現役のスタッフの方々のご努力に対して敬意を表するとともに, 心からお慶び申し上げたいと思います。

実は昨日, 大隅学部長にお電話いたしまして, 今日は何を着ていったらいいだろうかと伺いました。100周年の時, 何かお祝いを仰った方が黒いものを着ていらしたということなので, こういう服装をして参りましたが,



それは本当に心からお慶びするつもりで、こういう格好をして参りました。

私と理学部との関係ですが、前は家政理学科とっておられました。特に私は生物の方ですので、理学第二の農学生物をやっていらっしゃる方々とおつき合いが長いんですが、それを考えますと1954年からですので、もう半世紀位になります。その頃、私は東大の神奈川県三崎臨海実験所の助手になっておりまして、妹尾先生という動物学の大先輩の先生が、日本女子大の理学第二の学生さん達を連れていつも臨海実習にいらしゃったんです。

私がしていた助手というのは、旅館の番頭みたいなものでございまして、皆さま方がいらしゃると、実習については特にお手助けはいたしませんでしたが、宿泊の世話その他をやらせて頂きました。大隅先生もその頃いらしゃったというようなことを伺いましたので、その頃からのお付き合いでございます。妹尾先生はツー・テン・ジャックがお好きで、夜になりますと私もそのお手手をさせられたり、いろいろなお話を伺ったりしたという懐かしい思い出がございます。

その後、私は東大の教養学部に参加しました。そこには湯浅明先生がいらしゃいましたが、湯浅先生はこちら日本女子大でも教授で、生物を教えていらしゃったんです。今はあり得ないんですが、国立大学の教授で、こちらでも正式な教授をしていらしゃったはずです。そういうご関係もあって、後々私もここで教えることもありましたが、大隅先生が日本女子大を代表して、そして私が東大を代表して、湯浅先生の古稀のお祝いをご一緒にさせていただいたということもございました。

私の恩師は石田寿老という方で、もうお亡くなりになりましたが、付加酵素の発見者です。ウニが受精いたしますと、受精膜というものができます。そういうものをご覧になった先輩の方々も一杯いらしゃると思います。そして少し発生が進み、細胞が分裂し増えて胞胚という時期になりますと、その受精膜を破って外へ出て、広い海へ泳ぎ出していくわけです。その時に受精膜を溶かす酵素があるんですが、それを付加酵素といいまして、その発見者が石田先生でございます。

石田先生も、ここで教えておられたんですね。お嬢さんもお二人、ここのご出身だと思いますが、そういう関係で石田先生の弟子どもが時間交渉をさせていただいて、石原さんとか山上さんという方々が教えましたけれども、山上さんが辞める時に、私にその後をやってほしいと言われましたので、ここで数年間か教えさせて頂きました。非常に楽しい時期を過ごさせて頂きました。何人かは卒業研究で来て、今も仕事を続けている人達もおります。ここで教えてみて、日本女子大の学生さん達は、磨けば光るといいますか、本当にスタンダードは高いと思って

おります。ですから、この中だけではなくて、外へ行かれた方々もそれなりの仕事をして活躍しておられるということは、非常に喜ばしいと思っています。

その代表が大隅先生でいらっしゃるわけで、猿橋賞もお取りになりましたし、先日紫綬褒章もお取りになったわけですが、酵母の形態的な研究に留まらず、そのお仕事は本当に立派で、そういう方を理学部長として持たれ、既にドクターも5人出されたということですから、今後のこの理学部の発展もますます素晴らしいものになるだろうと思っております。

私の家内は国立の女子大の出身で、この頃はもうやりませんが、よく論争をいたしました。「大体国立の女子大学なんかはいらん」というのが私の主張でございます。何でそういうものを作るのか。しかし家内の言うには、「女子大学であると、そこには男がいないから（3Kでもないかもしれませんが）、あらゆることはみんな女子でやらなければいけない。それが、女の方の自分でいろいろなことをやらなければいけないという力を育てるんだ」と主張いたします。なるほどそうかなと思っているわけですが、ここは私立大学ですので、国立のような制限はなしに、そういう理想を追求していくことができると思います。

いまでも、大隅先生や学長先生のお話を伺いしても、成瀬先生が創立の頃からそういうことをお考えになっていらしゃったということで、非常に感銘を受けました。今後とも、この日本女子大学の理学部が良い学生さんを育てられまして、先生方も良いお仕事をしてくださって、日本の、というだけではなく、世界的な中心になって頂き、またそういうところで活躍する学生さんたちを育てていただければ、大変有難いと思います。

私とこの大学との関係のことばかりお話いたしましたけれども、そういうことでお許し願ひまして、お祝いの言葉とさせていただきます。本日はおめでとうございました。
[拍手]

司会 毛利先生有難うございました。

ここで祝電をご披露させていただきます。「1901年の開学当初より女性の自然科学教育を重視されてきた貴学が、理学部創設10周年を迎えられましたことに、日本私立大学連盟を代表して、心からお祝いとお喜びを申し上げます。信念徹底、自発創生、共同奉仕という創業者成瀬仁蔵先生の教育実践綱領の精神を脈々と受け継がれ、その特色ある学風を更に一層高揚され、今後ますます発展されると共に、これ迄大切に培われてきた人的的財産をこれからも広く社会に還元し続けられることを心よりお祝ひいたします」。日本私立大学連盟会長・奥島孝康様から頂戴いたしました。

また、韓国梨花女子大学 Sang Chang 学長から、「理学部創設10周年おめでとうございます」というメッセージを頂きました。同じくキム前理学部長より、同様のメッセージを理学部長にいただいております。

その他、日本私立学校振興共催事業団理事長・鳥居泰彦様、文京区長・煙山 力様、大阪女子大学理学部長・

大道 薫様、日本私立大学協会会長・大沼 淳様をはじめ、多数祝電を頂戴しておりますが、時間の関係で一部のみ紹介させて頂きました。有難うございます。以上をもちまして、理学部創設10周年記念式典を終了いたします。[拍手]

